

# 科学をどう教えるか ②

2013年  
1月13日(日)・14日(月・祝)  
13時から 9時半から

主催：NPO法人 理科カリキュラムを考える会  
共催：東海大学教育開発研究所  
後援：日本物理教育学会

## 参加費

事前申し込み  
一般…3000円 会員…2000円 学生…1000円  
当日申し込み  
一般…3200円 会員…2200円 学生…1200円  
※参加費は当日会場にて

## 申し込み・問い合わせの方法

● 次の内容を郵送・メールまたはWEBでお申し込み下さい。  
【お名前】【ご所属】【ご連絡先Eメールアドレス】  
【本会会員 / 非会員】  
【1日目懇親会(4000円程度)への参加 / 不参加】  
【2日目弁当(800円)弁当の要 / 不要】  
● 郵送・メールでの申し込み先(問い合わせ先)  
理科カリキュラムを考える会事務局  
〒195-0063 町田市野津田町 2094-8  
小川慎二郎 sympo@rikakari.jp  
● WEBページでの申し込み先  
www.rikakari.jp/  
www.ried.tokai.ac.jp/  
※お申し込みされなくても参加できますが、資料準備のため、是非事前にお申し込み下さい。  
※このシンポジウムはNPO法人理科カリキュラムを考える会の第14回大会を兼ねています。

## プログラム 【1日目】(13:00～18:30)

- 挨拶 ▶ 授業に生かそう—『科学をどう教えるか』  
滝川洋二 (NPO法人理科カリキュラムを考える会理事長・東海大学教育開発研究所所長)  
講演 ▶ 新学習指導要領実施—成果と課題— 清原洋一 (文部科学省・教育政策研究所)  
特集「訳書『科学をどう教えるか』について」  
▶ 『科学をどう教えるか』を翻訳し高校の授業で試みて (仮題) 岸澤真一 (拓殖大学)  
▶ 『科学をどう教えるか』連続読書会—読んで議論することで見えてきた課題—  
小川慎二郎 (早稲田大学高等学院)  
▶ 『科学をどう教えるか』の周辺—マクダーモット、ミンストレル、ミネソタ大の協同的問題解答など—  
笠潤平 (香川大学)  
▶ Tutorialを用いた授業展開とその日米比較 (仮題) Mike Hull (Maryland大学)  
▶ 『科学をどう教えるか』を自分の実践に取り入れるために  
木村優里 (立教大学)・館野泰一 (東京大学)

## プログラム 【2日目】(9:30～16:00)

- 午前 ワークショップ  
▶ 生徒と教員、生徒同士のやり取りを取り入れた演示実験講義 (ILD) の実践  
石井登志夫 (埼玉県立北本高校)・岸澤真一 (拓殖大学)・湯口秀敏 (埼玉県立大宮高校)  
午後 全体会  
▶ 薬によるリスクの研究 (仮題) 飯山智香子 (国立医薬品食品衛生研究所) (依頼中)  
▶ 読んで理解できる教科書作り 兵頭俊夫 (小中高理科カリキュラム研究会)  
午後 分科会  
▶ 読んで理解できる教科書作り  
小学校「電流と磁石」 池田和夫 (小中高理科カリキュラム研究会)  
中学校「化学：化学反応」 大川満里子 (小中高理科カリキュラム研究会)  
中学校「生物：遺伝」 平山勲 (小中高理科カリキュラム研究会)  
▶ 小学校の教員の体験観察に関する支障について 石渡正志 (甲南女子大学)  
▶ 福島版放射線教育で何を教えるか? —思考の練り上げ模擬授業—  
佐々木清 (郡山市立明健中学校)  
▶ 市民社会における理科教育・科学コミュニケーションの目的—原発震災の経験をふまえて— 林衛 (富山大学)  
▶ 日本各地の授業筆記で解明する明治中期科学教育とその国際的連関  
興治文子 (新潟大学)・小林昭三 (新潟大学)  
▶ 新指導要領・新教科書のもとでの実践報告 (会員有志)  
▶ ICT活用 (リアルタイムセンサー・動画分析)によるアクティブ・ラーニング型授業紹介  
小林昭三 (新潟大学)  
▶ リアルタイム実験を取り入れた東海大学初年級物理  
佐藤実 (東海大学)  
ポスター発表 (参加募集中)  
▶ マレーシアの理科教育と日本との比較 Marcus Khoo (マレーシア現職中等学校物理教員)

## 会場

### 東海大学 代々木キャンパス 4号館5階講堂

東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4  
※駐車場が狭いため、最寄りの駅よりおいで下さい。  
※代々木上原、代々木八幡 (小田急線)、代々木公園 (東京メトロ千代田線)、駒場東大前 (京王井の頭線)のどこからも徒歩10分程度です。



地図の典拠：東海大学 HP